

若い視点から鋭い質問の数々



壇上で質問する



議長を務めた遠藤莉乃さん



投票で議長を選出

中学生に議会の役割や仕組みを学んでもらい、市政に対する関心を深めてもらおうと「中学生議会」が8月17日に市議会議場で開催されました。昨年度に引き続き感染症の拡大防止対策を図りながら、参加校を例年の約半数とし、市内6つの中学校から代表12人が出席。議長選挙で選ばれた議長役の生徒の議事進行により、地域の身近な問題から市の将来に関することまで、中学生の視点からさまざまな質問が出されました。今回は各議員の主な質問とそれに対する答弁の一部を紹介します。

市の国際化施策について

西中学校

小中学校での英語教育における「コミュニケーション能力の育成」の具体的な手立てをどのように考えていますか。

【教育長】市では、文部科学省から「教育課程特例校」に認定されて、特別な教育課程に基づき、英語教育を行っています。具体的には、小学校では、第3学年から英語教育を実施するところを、第1学年から実施し、英語に慣れ親しむカリキュラムとなっています。また、体験的な



真剣な表情で答弁を聴く



自分の考えを質問する



追加の質問を読み上げる

【市長】警察などの関係機関と連携し、市民の交通安全意識を向上させるため、毎年、小中学生へ交通安全に関する啓発物資やチラシなどを配布することも、交通ルール順守の呼び掛けなどを広報なりに掲載するなど、交通事故防止に取り組んでいます。交通事故などを未然に

遠山中学校
市の交通・防犯対策について

自転車の運転の違反が多いと感じていますが、交通パトロールはどのように行われていますか。

【市長】市では、農業従事者の高齢化への対策として「人・農地プラン」の作成の推進に取り組んでいるほか、高齢化が深刻な状況のエリアを明らかにし、今後、地域の農業を担っていく若い農業従事者や精神的な農業法人にそのエリアへ参入を促しています。また、若い世代にも農業に魅力を感じてもらえるよう、広報なりの昨年11月1日号では13ページにわたる特集を組み、若い農業従事者がやりがいと可能性に満ちた仕事であると感じていることなど、農業の魅力を発信するとともに、市ホー

大栄みらい学園
市の農業問題について

全国的に農業従事者の高齢化が進んでいますが、市はどのような高齢化対策を行っていますか。



出席した中学生議員(敬称略)

- 遠山中学校…小堀 朋華
- 西中学校…宮島 優香、服部 拓磨
- 公津の杜中学校…伊藤 朱里、辻 天心
- 大栄みらい学園…堤 碧弥、飯森 美歩

- 成田高等学校附属中学校…加瀬 大翔、伊藤 和輝
- 吾妻中学校…多田 敦紀、遠藤 莉乃

コミュニケーション活動を中心とした英語科授業を実施することで、積極的にコミュニケーション能力の育成を図っています。また、中学校では、年間140時間の英語科授業を実施するところを、この授業に加えて聞く・話す活動を中心とした自己表現活動を15〜18時間程度増やすことで、英語に慣れ親しみ、物おじせず外国人と接する力をさらに伸ばすことを目指しています。このように、9年間を通して段階的に英語でコミュニケーションを図るための資質・能力の育成に努めています。

防止するため、警察により市内巡回が行われていますが、市では、青色回転灯パトロール車により、下校途中の児童生徒に交通安全の声掛けや、見守り活動を行っています。また、各学校においては、PTAや地域ボランティアと連携し、定期的に学校や地域の実情に合わせた見守り活動を行っています。

ムページに若い農業従事者のSNSのリンクを貼り、活動状況などの情報を発信しています。さらに本年1月にオープンしたワンストップ輸出拠点機能を備えた新生成田市場を活用し、農産物を海外へ輸出するなど、成田の農業が若い世代にも魅力のある職業となるよう取り組んでいきたいと考えています。

成田高等学校附属中学校
市のコロナ対策について

若人たちのコロナ感染拡大を抑えるために、市はどのような対策を行っていますか。

【市長】感染を防止するためには、密閉空間、密閉場所、密接場面いわゆる「3つの密」を避けること、人と人との距離の確保、



堂々とした中学生議員



中学生議員からの質問に答える小泉市長

市長講評

中学生議員の皆さんからの質問は、現在本市が直面している課題や、安全・安心な市民生活を求めた意見であり、本当に素晴らしい質問であったと思います。また、堂々と発言している姿は大変立派であり、とても感心しました。

皆さんが本市の未来について一生懸命に考えてくれているという熱意が伝わり、大変うれしく、そして心強く、頼もしく思います。それだけに、私や各部長も全力で答弁をさせていただきました。

皆さんからいただいた貴重なご質問や提言は、今後、私のモットーであります「住んでよし 働いてよし 訪れてよし」の生涯を完結できる空の港まちなりたの実現に向けて大いに反映し、また、今後の本市の発展のために役立てていきたいと思えます。

本日、皆さんは自分の意見を述べるだけでなく、ほかの中学生議員の質問や意見にも耳を傾け、市からのさまざまな答弁を聴いていただき、見聞が広がったのではないのかなと思います。

どうか本日の経験を、これからの学校生活や今後の人生に活かしていただき、大きく皆さんが成長、羽ばたくことを期待しております。

そして、本市がより住みやすいまちになるよう、皆さんと一緒に考えていくことができれば大変うれしく思います。

マスクの着用、手洗い、換気などの基本的な感染対策を徹底することが、若者を含め全ての人にとって重要です。市では、感染の拡大や重症化を防ぐためにワクチン接種を進めています。若者の3回目接種の接種率は全国的に伸び悩んでおり、本市においても、12歳以上は2回目接種では8割以上が接種しているものの、3回目接種では、国や県と同様、ほかの年代と比べて低い水準となっていることから、ワクチン接種が円滑に進むよう取り組んでいます。

（仮称）土屋駅の設置とまちづくりについて

公津の杜中学校

（仮称）土屋駅の設置について、

市はどのように考えていますか。

【市長】土屋地区への新駅の設置は、市民の利便性の向上と地域の活性化に大きな役割を果たすものと考えていることから、平成22年の成田スカイアクセス線の開業に合わせ、土屋駅および成田ニュータウン北駅（現在の成田湯川駅）について、国や鉄道事業者などに対し要望活動を

行いました。しかしながら、駅利用者の将来予測を行った結果、土屋駅については、収支採算性に見合う利用客が見込めないことから、設置が見送られました。市では、その後も土屋駅の設置に向け、令和2年度に改めて駅利用者の将来予測を行いました。が、駅利用者数の見込みなどの鉄道需要については、以前と比較しても大幅な拡大は認められませんでしたが、鉄道需要の推移を見守りながら、土屋駅の持つポテンシャルについて、鉄道事業者に訴えていきます。

市の教育施策について

吾妻中学校

中学生たちが主体的にジェンダレス社会への推進的な取り組みを行っている学校はありますか。

【教育長】生徒主体によるジェンダレスに向けた取り組みとして、制服についても柔軟な対応をしていこうとする学校が多くなってきました。具体的な例としては、リボンやネクタイ、スカート、スラックスなどを自由に組み合わせ、自分の思いに

合った制服を選択し、着用できるようにしている学校が増えてきました。生徒の個性や意見を反映させた校則作りは、一層推進されていくものと考えています。また、校則については、教育委員会から各学校に対し、本当に必要なものかというところから生徒を交えて議論し、生徒が納得した上で作り上げていくことが望ましいという考え方を示し、積極的に見直しを図れるよう努めています。

※くわしくは市民協働課市民相談室（な20・1507）へ。